



鮮度保持フィルムを用いたきゅうり先端肥大症軽減効果

本県産きゅうりにおいて、夏期高温期に流通段階で果実先端が奇形肥大する障害（以下、「フケ果」）が生じ、産地の信頼低下や単価下落を招いており、その対策が求められています。

【1 成果概要】

- (1) 鮮度保持フィルム「FH フィルム」（住化積水フィルム株式会社）をきゅうり出荷箱内包装に用いることでフケ果の発症を軽減することができます（図1、写真）。
- (2) 「FH フィルム」の使用と併せて予冷することで、フケ果の発症軽減効果を高めることができます（図2）。

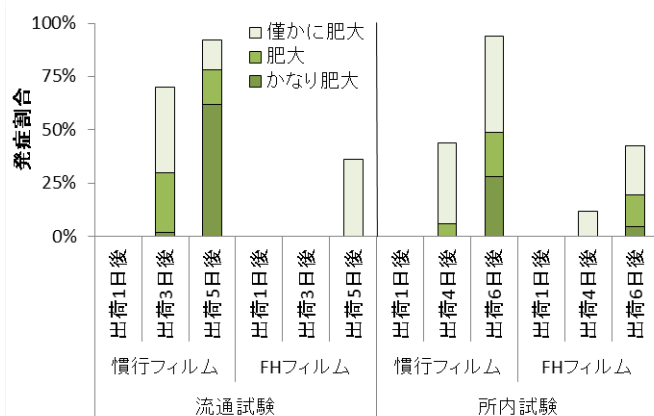


写真 出荷8日後時点の様子
(上段：FH フィルム 下段：慣行フィルム)

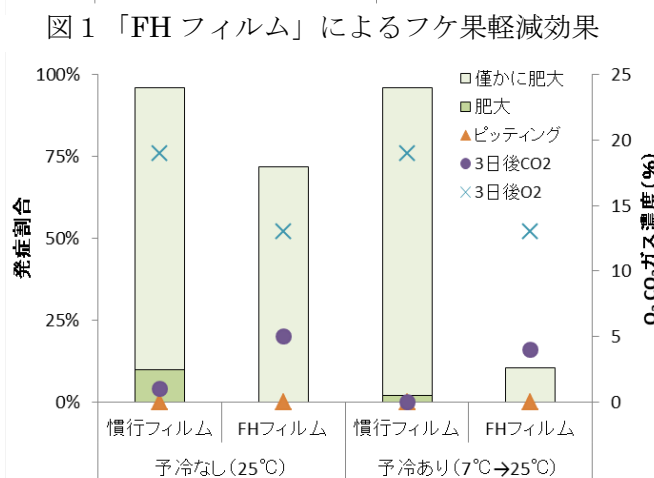


図2 予冷併用によるフケ果軽減効果

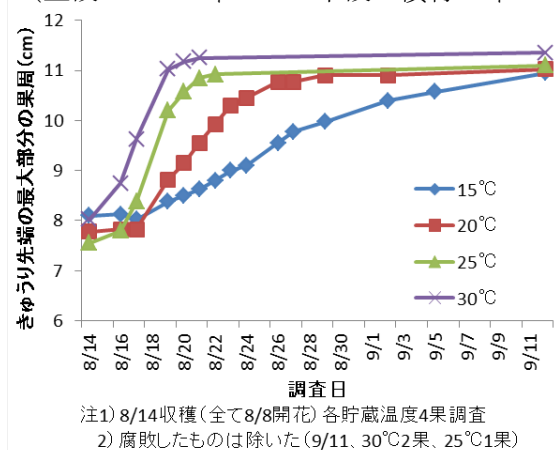


図3 貯蔵温度と果実肥大速

【2 コスト】

現状では FH フィルムが1枚当たり約30円（慣行フィルムは1枚当たり約10円）のコストがかかります。

【3 留意事項】

- (1) 収穫後は高温下に置くことにより肥大速度が早まるため、早期出荷及び収穫後の流通各段階における低温貯蔵を対策の根幹とすることが必要です（図3）。
- (2) フィルムは全てハンカチ折りにより包装し、折口の一部分をシール等により封をして試験を行いました。フィルム包装折口全面をテープで閉じるなど過度に密封した場合、カビ・腐敗を生じる可能性があるため避ける必要があります。

※ 本研究は、食料生産地域再生のための先端技術展開事業（復興庁、農林水産省）により実施しました。

担当研究室 園芸技術研究部 野菜研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4419

FAX. 0197-71-1083